

申請者	南 隆太
所属	東京経済大学 コミュニケーション学部
調査課題	海外就業体験を中心とした異文化対応力育成教育に関する研究
調査研究の趣旨	海外インターンシップ研修を通じた異文化理解および異文化対応能力(Intercultural Competence)を高めるための教育方法の確認とその評価方法の策定を行う。
内容	<p>オンライン研修として以下の3つの研修を実施した。</p> <p>①エンデラン・カレッジ(フィリピン)による「英語・リーダーシップ研修」(2021年2月8日～2月19日)</p> <p>②マレーシアのJTB ガイアレックの企画による「オンライン就業体験」(2021年3月1日～3月5日)</p> <p>③カナダのJTBの企画による「実用英語と海外テレワーク体験研修」(2021年3月15日～3月26日)</p>
成果	<p>総評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の研修において、異文化環境で働くことについて異なる視点からの学びが確認できた。 ・海外とのやり取りにおいてオンラインでの業務が今後増えることを考えると、今回実施したオンライン研修は、文化的・社会的に異なる背景を持つ人たちとのオンライン上での協働作業を担うために必要な異文化対応能力の涵養に一定の効果が期待できる。 ・実施に現地で行う研修では、特に初めての土地の場合、現地の環境・風土の珍しさに目を奪われて気づきにくいこともあるが、相手の表情を丁寧に観察しながら行う言語でのコミュニケーションが中心になることで、コミュニケーションにおける文化的な違いへの気づきや発見が期待できる。 ・これまで経済的な理由で海外研修への参加を躊躇せざるを得なかった学生にとって、参加費用が低く抑えられるため、学生が積極的に参加できた。 ・オンライン研修では日本時間に合わせて研修を行うため、時差や飛行機での渡航にたいして体力的・心理的に不安を感じる学生が参加しやすい。 <p>①エンデラン・カレッジ「英語・リーダーシップ研修」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日3時間のマンツーマンレッスンにより、英語力の向上を実感でき、達成感を感じる学生が多い。 ・フィリピンを始め近隣のアジア諸国出身の現地学生とのオンラインでの交流は、マンツーマン同様に笑ってごまかすことや黙っていることができないため、必然的に文化的な違いを踏まえたコミュニケーションを積極的に取る経験ができた。 ・‘Global Leadership’ と ‘Sustainability’ の授業は、英語で行うために内容を難しく感じる学生もいたが、他大学の学生とのグループワークもあり、協働力や異文化対応能力といった今後の就職活動等を見据えたものとして評価できる。 <p>②JTB ガイアレック(マレーシア)「オンライン就業体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日5時間の就業体験をJTB マレーシア(クアラルンプール)とオンラインで実施した。時差が少ないため、昼休憩を挟んで十分な研修時間が確保できた。 ・研修内容はマレーシアとムスリムに関する知識の習得、クアラルンプール観光地のバーチャルツアー体験、マレーシア人の訪日旅行や日本人のマレーシア旅行のプランニングと英語による発表、グローバルに働く

	<p>ということについての現地スタッフとの意見交換である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解の面では、ムスリム対応が単に食事の面だけでなく、曜日による礼拝の違いや肌の露出など幅広いことに及ぶことが理解できた。実際にムスリムのスタッフから学べたことで印象に残る経験になった。 ・現地スタッフや他大学の学生とのディスカッションを通して「海外で働くということ」自体に興味を持つことができ、海外就業もキャリア選択の一つに考えることができるようになった学生もいた。 ・研修を実施した旅行会社の様々な部署の方、現地の政府観光局やホテルのスタッフなど多様な立場の方からの話を聞くことで、異文化理解が深まり、さらに実際にツアー行程の中などにおいて活用することで異文化対応能力が高まることが確認できた。 <p>③JTB カナダ「実用英語と海外テレワーク体験研修」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7日間の英語研修と3日間のテレワーク体験研修を毎日3時間 JTB カナダ(バンクーバー)とオンラインで実施した。大きな時差も国際ビジネスを考える上で、参加学生には貴重な経験となった。 ・研修内容はカナダの文化・歴史・生活習慣をはじめ日常生活で役立つ英語表現やツーリズムに関するテーマを取り入れた実践的な英語研修とビジネスメールの書き方やバンクーバーを中心にしたツアープランニング、海外のホテルやバス会社への見積り依頼などの海外業務研修の2つである。 ・異文化理解の面では、同調することを良しとする日本に対して、欧米では自分の意見を積極的に出さないと、「やる気がない」などのマイナスイメージを持たれることが参加学生に理解された。 ・ツアープランニングでも、日本のように交通網が細かく整備されている国はまれであることなど国による差が大きいことを実感できたようである。 ・現地の日本人スタッフからは、カナダ暮らしや学生時代の英語学習、海外の旅行会社で働くやりがいなどを直接聞くことができ、参加学生は「海外で働くということ」の具体的なイメージをつかむことができた。 ・英語研修では英会話を学ぶことだけでなく、英語を話すときに必要なマインドの持ち方を理解することができた。業務研修では現地法人の旅行会社が現地の会社に業務を依頼する B to B を前提に行われ、グローバルビジネスでの協業を体験できるものとして評価できる。
<p>成果報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年3月12日 東京経済大学コミュニケーション学部 FD 研修において報告 ・2020年度「学生の海外派遣」としてエンデラン・カレッジの研修を報告。 https://www.tku.ac.jp/tku/disclosure/ ・今回の3件のオンライン研修については、大学ホームページ内の以下の新学科特設ページで報告。 https://note.com/tokecom/m/mf1e30446b4ea
<p>別添資料</p>	<p>FD 研修資料パワーポイント（学生の写真を含まみますので、WEB 等での公開はお控えください）</p> <p>各研修学部内共有報告資料</p> <p>各研修学生向け学内説明会資料</p>